

## 熱中症による救急搬送の状況及び予防啓発の取組について

### 救急企画室

#### 1 はじめに

消防庁では、平成20年度から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員の調査を行っております。調査は、例年5月1日を含む週の月曜日から9月30日を含む週の日曜日までの期間で実施しており、今年度は、5月1日から開始し、8月13日までに63,050人(※速報値)の方が熱中症で救急搬送されました。今年度は5月、6月ともに調査を開始して以降、それぞれの月で過去2番目の搬送者数を記録し、7月以降も暑い日が続いたため、例年と比較しても多くの方が熱中症により搬送されております。

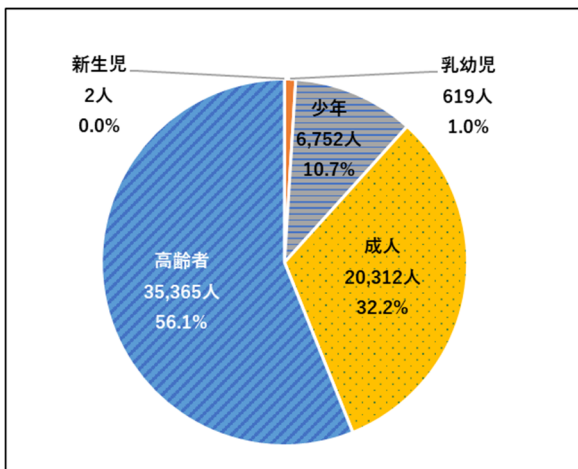
気象庁によると、今後も暑い日が続くことが予想されるため、熱中症対策を十分に行いましょう。

#### 2 熱中症による救急搬送状況

##### ① 年齢区分ごとの救急搬送人員 (図1)

5月1日から8月13日までの熱中症による救急搬送人員の合計63,050人のうち、高齢者が35,365人(56.1%)と最も多く、次いで成人20,312人(32.2%)、少年6,752人(10.7%)などとなっています。約6割を占める高齢者は暑さやのどの渇きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくい傾向があるため、周囲の方がこまめに声をかけて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

図1 年齢区分別 (構成比)  
令和5年 総搬送人員 63,050人

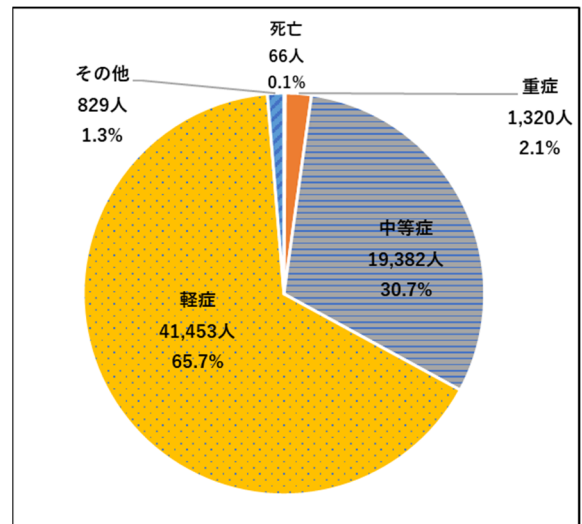


新生児 生後28日未満の者  
乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者  
少年 満7歳以上満18歳未満の者  
成人 満18歳以上満65歳未満の者  
高齢者 満65歳以上の者

##### ② 傷病程度ごとの救急搬送人員 (図2)

5月1日から8月13日までの熱中症による救急搬送人員の合計63,050人のうち、軽症が41,453人(65.7%)と最も多く、次いで中等症19,382人(30.7%)、重症1,320人(2.1%)、死亡66人(0.1%)などとなっており、例年と比べ構成比に大きな変化はありませんでした。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化します。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です。

図2 初診時における傷病程度別  
令和5年 総搬送人員 63,050人



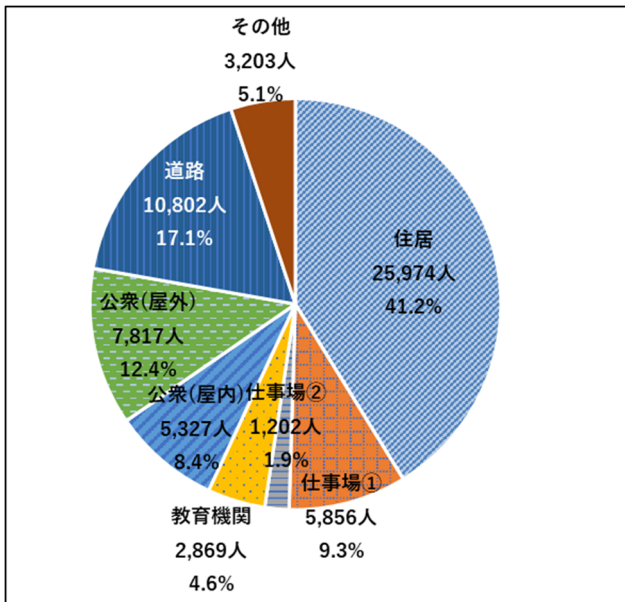
死亡 初診時において死亡が確認されたもの  
重症 (長期入院) 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの  
中等症 (入院診療) 傷病程度が重症または軽症以外のもの  
軽症 (外来診療) 傷病程度が入院加療を必要としないもの  
その他 医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、その他の場所へ搬送したもの

※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれる。

③ 発生場所ごとの救急搬送人員（図3）

5月1日から8月13日までの熱中症による救急搬送人員の合計63,050人のうち、住居が25,974人(41.2%)と最も多く、次いで道路10,802人(17.1%)、公衆出入場所(屋外)7,817人(12.4%)、仕事場①5,856人(9.3%)、公衆出入場所(屋内)5,327人(8.4%)などとなっております。例年と比べ構成比に大きな変化はありませんでした。

図3 発生場所別（構成比）  
令和5年 総搬送人員 63,050人

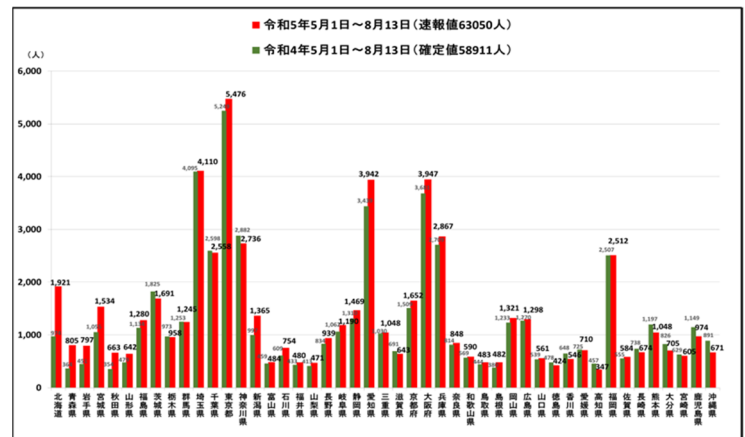


住居 (敷地内全ての場所を含む)  
 仕事場① (道路工事現場、工場、作業所等)  
 仕事場② (田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ)  
 教育機関 (幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等)  
 公衆(屋内) 不特定者が出入りする場所の屋内部分 (劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅(地下ホーム)等)  
 公衆(屋外) 不特定者が出入りする場所の屋外部分 (競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅(屋外ホーム)等)  
 道路 (一般道路、歩道、有料道路、高速道路等)  
 その他 (上記に該当しない項目)

④ 都道府県別の合計（図4）

5月1日から8月13日までの熱中症による救急搬送人員の合計63,050人のうち、東京都が5,476人と最も多く、次いで埼玉県4,110人、大阪府3,947人、愛知県3,942人、兵庫県2,867人となっています。また、昨年度と比較(5月1日から8月13日)すると、4,139人の増加(+7%)となりました。

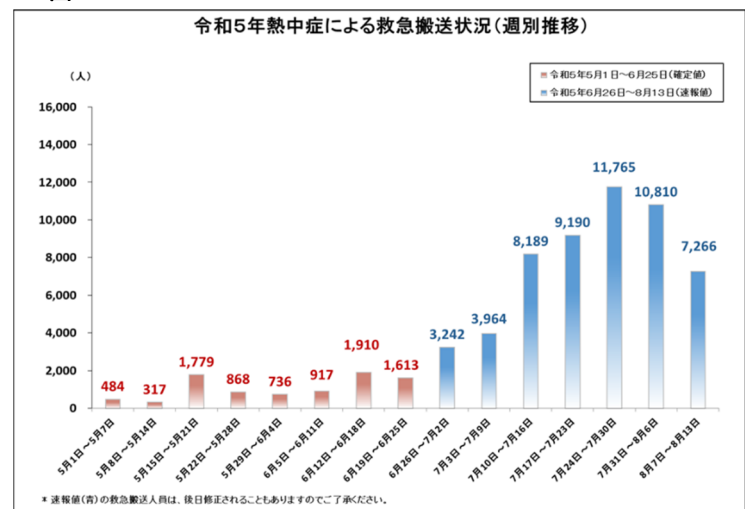
図4



⑤ 週別の推移（図5）

救急搬送人員は5月1日から300~4,000人前後で推移していましたが、7月10日の週から8,000人以上に増加しています。また、全国的に梅雨明けとなった7月24日の週は11,765人となっています。

図5



### 3 全国消防イメージキャラクター「消太」を活用した熱中症予防広報の実施

消防庁では、熱中症予防啓発として従来から、熱中症による救急搬送人員の調査と公表、「ポスター」や「動画」、「リーフレット」の作成、ツイッターによる情報発信などを通じ、住民の皆様幅広く注意喚起を図るとともに、全国の消防本部が行う予防啓発活動を支援しております。

今年度作成した熱中症予防啓発ポスターは、熱中症のリスクが高いとされている、こどもと高齢者への呼びかけを主なテーマにした予防啓発ポスターとなっています。



【ポスター】

【参考】熱中症予防情報サイト 普及啓発資料（環境省）  
[https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness\\_pr.php](https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_pr.php)

### 5 おわりに

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。また、周囲の気遣いで熱中症になりやすいとされる高齢者や子供を守ることができます。

消防庁では、全国の消防本部と連携をとりながら、引き続き熱中症予防啓発に努めていきます。

消防庁熱中症情報

[https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_2.html](https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)

※ 熱中症予防啓発のコンテンツは、この URL 内に掲載しています。

お問い合わせ先

消防庁救急企画室 小味、門口、西川

TEL : 03-5253-7529

【動画】



### 4 熱中症予防のポイント

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。以下の項目を心がけて下さい。

- ・ 涼しい服装、日傘や帽子で暑さを避けましょう
- ・ のどが渇いていなくてもこまめに水分補給をしましょう
- ・ 部屋の温度に注意し、エアコンや扇風機を上手に使いましょう
- ・ 熱中症警戒アラート発令中は外出をできるだけ控え暑さを避けましょう
- ・ 夜間も熱中症に注意が必要です。睡眠前の水分補給を心がけましょう